

伊藤大使の Dr. Eduardo Pereira Ramirez 病院における医療機材引渡式出席について

令和6年11月19日、伊藤大使は、バルパライソ市にある Dr. Eduardo Pereira Ramirez 病院で開催された、日本の無償資金協力事業で供与された医療機材の引渡式に参加しました。

本事業は、新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、保健・医療体制の安定・強化に貢献することを目的として行われたものです。チリでは、本病院を含む計18の病院に対し、総額4.6百万米ドルの医療機材が供与され、本病院にはX線撮影装置1台が設置されています。

この機材が、本病院の医療システムの更なる強化につながるとともに、多くの市民の健康と生命を守ることに貢献することを心から期待しています。また、この病院やバルパライソ市民の方々にとって日本からの友好のシンボルとなり、皆様が更に日本を身近に感じ、両国の良好な関係が一層深まることを祈念します。



引渡式の様子



保健省バルパライソ州事務局長挨拶



バルパライソ-サン・アントニオ保健局長挨拶



大使挨拶



病院長による概要説明



供与したX線撮影装置



記念プレート除幕



関係者による記念写真